**第21課　エズラの改革 2018.5.27**

◎ 賛美(一同) : 韓日208番、韓日377番

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条　◎ 御言葉朗読(一同) : エズラ10章1∼4節

◎ 本文朗読　◎ 主の祈り(一同) : 一番最後に

◎ 今日のマナ

聖殿完工数十年後、エズラはユダの共同体をみことばによって改革するためにエルサレムへと向かいます。エズラの改革を通してユダの共同体は当時、蔓延していた異邦人との通婚を整理し、新しく生まれ変わります。このエズラの改革は今日私たちにも大きな意味をもたらします。

**1. 妥協しない信仰**

旧約時代の端に位置した信仰の偉人エズラはモーセの律法に通じている学者であり神様の御手が彼の上にあったので王から寵愛を受けた人でした(エズラ7：6)。すなわち、信仰人として模範となり、社会的にも名望のある人物でした。神様はこのようなエズラをエルサレムへと送りユダの共同体をみことばによって新しくすることを願われ、これにエズラは堅い決心と共に多くの人々を導いてバサを離れてエルサレムへと向かいました。しかしエルサレムに到着したエズラは非常に衝撃的な姿に接するようになりますが、多くのユダの男たちが、異邦の女を妻として暮らしていることでした。異邦の女との通婚は旧約の律法では徹底して禁じられていることであったので(出エジプト34：15-16)、これを見たエズラは当惑しました(エズラ9:1－4)。ついにエズラは異邦の女との通婚を撤廃する改革を試みることになります。この課では“異邦の女との通婚整理”が持つ3つの意味を見ていきたいと思います。

一つ目、異邦の女との通婚整理は“妥協しない信仰”の大切さを悟らせてくれます。事実、帰還したユダ共同体の生活は多角的に簡単ではありませんでした。帰還は成しましたが、安定的な政治体系と軍事力を所有しているわけではなく、長い間イスラエルの地を空けていたのでサマリア人や多くの異邦人たちがその地を占めていました。このように不利な状況に置かれていたユダ民族たちは異邦人との結婚を通して協力を企てるようになりました。言い換えれば、適切な信仰の妥協によって人生の活路を模索していたのです。

しかしエズラが見た時、このような妥協は決して神様が喜ばれる行為ではありませんでした。異邦人との結婚は神様の律法に照らして見る時、決して容認されることのできない行為であったからです。エズラは生活の煩いの前で妥協したユダ人たちを咎め、神様のみことばを完全に従うことを命じました(エズラ10：10-11)。結局、強直なエズラの命令にほとんどのユダ人たちが異邦の女を離れ、ユダ共同体は再び聖くなりました。

私たちも、もしかすると食べて生きるためという名分のもと世の中で適当に妥協して生きて行くかも知れません。一見、妥協は人間万事の中で重要な人生の知恵であることは確かです。折衷された妥協を通して葛藤を解消し、相互利益をもたらすこともあります。しかし、妥協をしても良いことがあり、してはいけないことがあるという事実を私たちは覚えなくてはいけません。神様のみことばの前では妥協ではないただ従順だけがあるだけです。世と妥協し適当に過ごそうとする誘惑を追い出し、大胆に御言葉に従順する者に大きな報いがあるでしょう。

**2. 純潔な信仰**

二つ目に、異邦の女との通婚整理は“純潔な信仰”の大切さを悟らせてくれます。神様が早くイスラエルに異邦人との通婚を禁じられたのは信仰の純粋性を守らせるためでした。わずかのパン種が、こねた粉の全体を発酵させるように(ガラテヤ5：9)、異邦の配偶者の偶像崇拝が一つの過程を罪へと追いやり、それが広がりイスラエル全体に悪影響を与えることがあるからです。(しかし、これを当時の歴史的状況に対する理解を持たずに今日に適用して非信者との結婚を無条件に禁止してはなりません。)　神様は罪の一糸もイスラエルに入って来ることを願われなかったのです。神様がご自身の民にそれほどまでに要求される信仰の純潔性、私たちはどれほど守っているのか一度振り返ることを願います。もしかすると、私たちは世と調和を持って暮らし、伝道を容易にするという美名のもとで信仰の純潔さに染みをつけ、暮らしてきたかもしれません。しかし私たちがまことに世に影響力を及ぼそうとするならば、まず神様の前で聖くなくてはならないことを覚えなくてはなりません。塩が味を無くせば何の使い道もないからです(マタイ5：13)。ひいては、私たちが聖くなければ、世を変化させるのはおろか、かえって世に染まってしまうようになるでしょう。

世は私たちが適当に合わせる姿ではなく、世と区別されて生きる姿を見て感動を受けます。“あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。”(マタイ5：14)というみことばのように、私たちが世で光を放つ時、福音の影響力は隠れることができません。私たちが世を完全に離れて暮らすことはできません。しかし、世と同じように生きてもなりません。純潔な信仰と共に世に出て、世を変化させる私たちにならなくてはなりません。

**3. みことばに根付いた信仰**

三つ目に、異邦の女との通婚整理は“みことばに根付いた信仰”の大切さを私たちに悟らせてくれます。ユダ共同体は帰還した以降、エルサレム聖殿再建という大業を成しました。そしてこれを通して民族が一つとなり、礼拝の回復を図ることができました。そかし聖殿再建だけでは足りませんでした。神様のみことばに対する知識と従順が伴う時に初めてユダ共同体は再び神様の契約の民として完全に立てられることができました。エズラはユダ共同体をみことばに根を下ろすようにするために送られた人でした。‘異邦の女との通婚整理’はこのようなエズラの働きの一部分でした。

エズラのみことば改革を見ながら、私たちは教会と自分と礼拝を捧げる良い教友たちと集まりを持つことも重要ですが、何よりも私たちの信仰が神様のみことばの上に固く立てられなくてはならないことを悟ります。みことばが欠如した信仰は外側だけもっともらしく見えても中身は白紙の本のようです。みことばに対する正しい知識と従順で根の深い信仰を持たなくてはなりません。

**◎ マナの要約**

<妥協しない信仰>

1. 生活の煩いを持ったユダの民たちは異邦人との通婚を通して妥協を図りました。

2.エズラは‘異邦の女との通婚整理’を通して妥協する信仰を排斥しました。

3. 神様のみことばの前では妥協ではなく従順の道を行かなくてはなりません。

<純潔な信仰>

1. 異邦人との通婚はイスラエルの民たちの信仰の純粋性を傷つけました。

2. エズラは‘異邦の女との通婚整理’を通して純粋な信仰を回復させようとしました。

3. 何よりも神様の前で純粋な信仰を守らなくてはなりません。

<みことばに根付いた信仰>

1. エズラはユダ共同体をみことばに根を下ろすようにするため送られた人でした。

2. エズラは‘異邦の女との通婚整理’を通してみことばに根を下ろした信仰を回復しようとしました。

3. 礼拝を捧げることと聖徒間の交わりも重要ですが、それと共にみことばに根付いた信仰人にならなくてはなりません。

◎ 私の人生のマナ

<隣の人とあいさつ>

1. 妥協しない信仰を持ちましょう。2、純潔な信仰を守りましょう。3、みことばに根を下ろしましょう。

<祈り>

1.世の荒波が襲ってきても神様のみことばに妥協せず、従順させてくださいと祈りましょう。

2. 毎日、主の前で純粋な信仰を守らせてくださいと祈りましょう。

3. 神様のみことばをいつも慕い求め、読み、黙想することでみことばに根を下ろした信仰にならせてくださいと祈りましょう。

<とりなしの祈り>隣の人と祈りの課題を分かち合い祈りましょう。